

タイトルは MS 明朝体 18pt, 副題は同 14pt で記入してください。

タイトルと副題の間に 1 行開ける必要はありません。

副題は全角ハイフンで挟んでください。

保育者養成課程での講義外協働学習プログラム 構築に向けての一考察

— 非認知的能力を焦点として —

著者名は 12pt, 所属機関は 10pt です。所属機関は括弧で括って下さい。2 行に渡る場合は適宜行を増やして下さい。

高木 悠哉 (桃山学院教育大学) 小餅谷 哲男 (桃山学院教育大学)

Discussion for Establishing Off-campus Cooperative Learning Program in Childcare Worker
Training Course (英文タイトルは century10pt, 中央揃えです。)

Yuya Takaki (St. Andrew's University of Education) , Tetsuo Komochiya (St. Andrew's
University of Education)

The revised version of the preschool education procedures and the childcare guidelines for childcare centers makes a new statement on the ideal figure of children in their early childhood. The reason behind this statement is the significance of improving children's non-cognitive capacity which has been repeatedly suggested in recent years through the empirical studies based on the follow-up surveys from their early childhood. In this paper, relying on the assumption that children's non-cognitive capacity which should be enhanced in their early childhood are also required to childcare workers, a discussion was made for establishing the off-campus cooperative learning program that may improve the non-cognitive capacity of students attending a childcare worker training course. Specifically, as a tentative plan, centering on the grit which could be the foundation in improving the quality and ability of childcare workers, a discussion was, through interview learning and off-campus game-like cooperative learning, made on the trial implementation of overall lecture learning ensuring a psychological measurement from the next academic year. (アブストラクトは century10pt です。)

Key words: non-cognitive capacity, cooperative learning program, students of early-childhood education (Key words は century10pt です。Key words のタイトル表記は century ボールドです。)

1. 本文の記入について

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは、章、節、項の 3 段階までとします。章、節、項の見出しは MS ゴシック体 10.5pt として下さい。章の見出しは上下 1 行のスペースを空けて下さい。ただし、ページが切り替わる部分などは、章の見出しが最上段になるように適宜調整して頂いて結構です。また、章の見出しには 1, 2 というように数字による番号をつけて下さい。本文は、MS 明朝 10.5p です。

(2) 節の見出し

節の見出しには、(1)などの括弧付き数字で番号をつけて下さい。なお、節の見出しを記入する際は、見出しの上だけにスペースを1行空けて下さい。ただし、この例のように、節の見出しのみが行末に来るような場合は、次ページ最上段になるよう適宜調整して下さい。

(a) 項の見出し

項の見出しは、括弧付きのアルファベットを付け、上下にはスペースを空けないで下さい。項より下位の見出しは用いないで下さい。

(3) 実験や調査の場合の「方法」の記入について

実験や調査研究を行なった場合、対象者、質問紙、実験期間や手続きなどを「方法」として章にまとめて下さい。

2. 図表の記入について

(1) 図表の位置

図表は、最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。末尾にまとめて図表を掲載することは避けて下さい。また、図表の横に本文を記入することは避けて下さい。図表と本文の間には1行程度の空白を空け、区別を明確にして下さい。図表のタイトルは上部に記入して下さい。なお、本学会では完成原稿の提出を求めています。図表の位置を指定し別ファイルで図表を送付することは避け、正に掲載される原稿を作成して下さい。

〈表の記入例〉

自己欺瞞尺度、印象操作尺度の α 係数を算出したところ、内的信頼性を低下させる項目があったために、各尺度とも4項目ずつを除き、最終的に使用した項目の α 係数はそれぞれ.74、.57であった。社会的勢力尺度の α 係数は.74と充分であった。各尺度に含まれる項目の評定値を合計し、項目数で割り尺度得点を算出した。各尺度得点の平均値と標準偏差、及び相関係数をTable1に示した。

Table1. 記述統計量及び変数間の相関係数

	<i>M</i>	<i>SD</i>	1	2	3
1 社会的勢力	4.00	0.80	-		
2 自己欺瞞	2.79	0.66	.47 ***	-	
3 印象操作	2.53	0.58	.03	.11	-

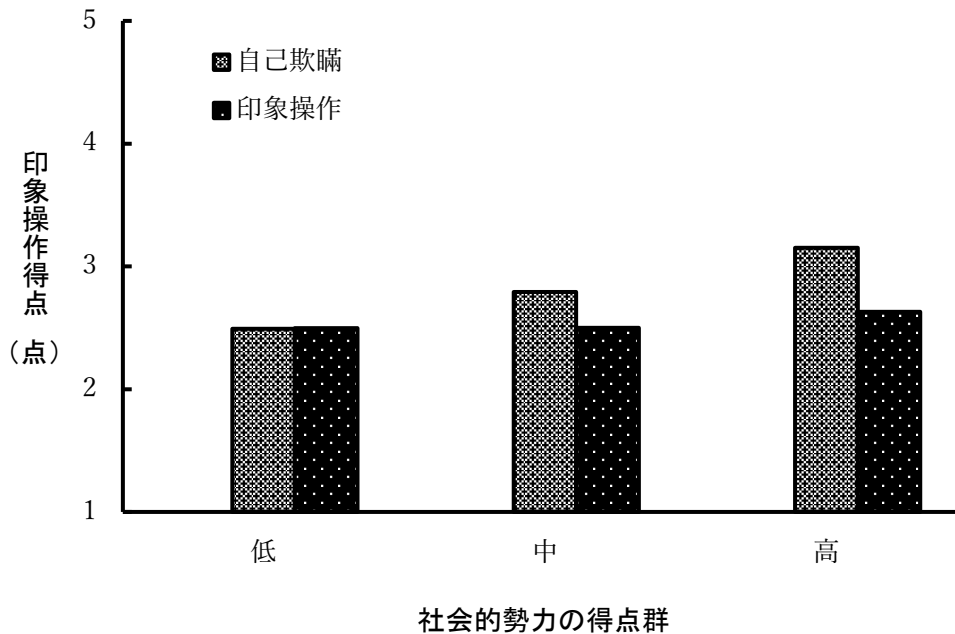
*** $p < .001$

社会的勢力と自己欺瞞には中程度の正の相関($r = .47, p < .001$)が見られたが、印象操作は社会的勢力、自己欺瞞のいずれとも有意な相関関係は見られなかった。高勢力者においてほど自己欺瞞が生じやすかった。

〈図の記入例〉

次に、社会的勢力の程度により、調査参加者を、高群、中群、低群の3群に分け分析を行った。3群間の社会的勢力の程度は、分散分析を行った結果、群の主効果が有意であり($F(2, 99)=206.10$, $p<.001$), Bonferroni法による多重比較の結果、高群、中群、低群の順に低くその差はすべて有意であった。

Figure1. 社会的勢力の程度による自己欺瞞得点と印象操作得点



(2) 図表中の文字等

図表はモノクロ印刷としていただきますので、カラーでのみ理解できるような図表の掲載を避けて下さい。また、写真を図表として掲載する際も、モノクロ化して掲載して下さい。なお、図表中の文字が小さくなりすぎないように注意して下さい。

3. 文献の引用

文献を引用する際は、当該引用文献の名字（発表年）を本文中に記載してください。引用文献では本文中に引用した各文献をアルファベット順に全て記載してください。なお、3名までは名字を列記し、4名以上の場合は、「他」でまとめてください（たとえば、高橋他，1990）。

〈本文中の引用例〉

原（2018）は具体的に必要な資質・能力について、質の高い遊び環境をつくりだすプロデュース能力、主体性、自立心、時速力、思考力などが子ども達にどのように育ったかを見るアセスメント能力、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を挙げている。これら能力は社会人基礎力と共通する部分があり、実際、保育者養成課程において社会時基礎力を求められる資質・能力として重要視する研究も見られる（高田・林・木村，2020；梅田，2014）。

末尾の引用文献は、本文最終行から2行空け【引用文献】と見出しを付けてください。見出しの下から1行空けずにリストを書き出してください。参考文献を記載する場合は、引用文献とは別に【参考文献】の見出しを付け、引用文献と同様の手法で記載してください。注、引用・参考文献は、見出しはゴシック体 10.5 ポイント、本文はMS明朝体 10 ポイントです。本文フォントと異なりますのでご注意ください。

〈引用文献の記入例〉

【引用文献】

書籍

Deci, E. L., & Ryan, R. M. (Eds.) (2002). *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: University of Rochester Press.

同一年度

伊田勝憲 (2003a). 教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討—自我同一性, 達成動機, 職業レディネスと課題価値評定との関連から— 教育心理学研究, 54, 367-377.

伊田勝憲 (2003b). 心理学系科目における向社会的な学習動機づけ像を探る—自意識および個人志向性・社会志向性と課題価値の関連— 心理発達科学論集, 33, 37-48.

書籍

梶田叡一 (2020). 教育評価を学ぶ: いま問われる「評価」の本質 文溪堂

学会発表

松浦美晴・上地玲子・皆川順・岡本響子・岩永誠 (2017). 新人保育士のリアリティショック尺度の開発 発 日本健康心理学会大会発表論文集

ホームページ

文部科学省 (2016). 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方に関する調査研究協力者会議 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/index.htm 2019年10月10日最終閲覧)

OECD (2015). *Skills for Social Progress : The Power of Social and Emotional Skills*. OECD publishing

(経済協力開発機構 (OECD) 編 無藤隆・秋田喜代美 (監訳) (2018) . 社会情動的技能 学びに向かう力 明石書店)

英語論文

Schwinger, M., Steinmayr, R., & Spinath, B. (2009). How do motivational regulation strategies affect achievement: Mediated by effort management and moderated by intelligence. *Learning and Individual Differences, 19*, 621–627.

日本語論文

梅本貴豊・田中健史朗 (2012). 大学生における動機づけ調整方略 パーソナリティ研究, 21, 138-151.

4. 注・謝辞について

脚注や注は出来るだけ避け、本文中で説明してください。どうしても必要である場合は、本文中に注¹⁾, 注²⁾, と通し番号をつけて指定し、本文末尾と引用文献との間に、【注】と見出しを付けて記載してください。謝辞は本文末尾と引用文献の間に謝辞と見出しを付け、その直後から文章を書き出してください。どちらも、見出しの前に1行スペースを空けてください。なお、謝辞と注を併記する場合、謝辞、注の順番で記載してください。科研費等の研究助成を受けた旨を記載する場合、謝辞にその旨を記載してください。